



序文

メタデータ	言語: jpn 出版者: 室蘭工業大学 公開日: 2019-03-25 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 松本, ますみ メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10258/00009827

序文

本紀要の特集では、「転換期における大学改革と今後の共通教育の挑戦」というテーマに沿った論文を集めた。この特集が組まれた契機は、第 68 回「東北・北海道地区大学等高等・共通教育研究会」が平成 30 年 8 月 23 日、24 日に室蘭工業大学（以下、本学）を会場として開催されたことにある。本学では昭和 53 年の開催以来、実に 40 年ぶりの開催となった。当日、東北・北海道地区から 120 名を超える高等・共通教育関係者が集い、刺激的な発表と活発な質疑応答、さらには白熱した意見交換が行われた。

この研究会を主催するに先立って、本学からは共通教育にかかわる教員の間から委員を選出し、全体テーマと 3 つの分科会のテーマを定めた。議論の結果、全体テーマを「転換期における大学改革と今後の共通教育の挑戦」とした。これが本特集のテーマとなっている。さらには、第 1 分科会テーマを「共通教育のミッションの再定義」、第 2 分科会テーマを「グローバル市民を育てる教育とは」、第 3 分科会テーマを「カリキュラム改革と FD/SD の実践」とした。

これらテーマに従って東北・北海道地区の大学、短大、高専等に話題提供者を募ったところ、第 1 分科会には 8 件の、第 2 分科会には 9 件の、第 3 分科会には 8 件の話題提供の申し出があった。予想を超える数の話題提供に嬉しい悲鳴であった。その半面、決められた発表時間の枠に収まりきらない予測もあり、本学からの話題提供者の登壇は辞退せざるを得なかった。そのような経緯もあり、本来であれば、この研究会で発表されるはずであった本学の教員による話題提供の内容を論文化したのが本特集である。

1991 年の大学設置基準の大綱化から四分の一世紀以上たった。この間の「平成」の時代、日本の大学は、上からと下からの改革につぐ改革を進めてきた。同じ時代、18 歳人口の減少、大学の予算緊縮化、共通教育科目の削減、学問/知のあり方の変化、インターネット/スマートフォンの普及と学生の依存、AI の登場、急速なグローバル化の進展、中国の台頭、大学ランキングの脚光化等々、抗い難い急激な変化に社会は覆われている。このような環境の中、大学における共通教育の理念と使命を再定義し、将来の市民社会を担う学生のための教育をよりよいものとするための有意義な実践方法を模索するということは喫緊の課題であることはいうまでもない。本特集号では、そのような問題意識を共有した本学の共通教育担当教員による問題解決のためのさまざまな試みや観点を掲載した。地方工科系単科大学の共通教育の挑戦例として、次の時代の読者の研究や実践の一助となれば幸いである。

ひと文化系領域
教授 松本 ますみ